健康・長生きに大切なのは毎日の食事

wanfoo®通信

連載企画　第6回

発行 環境プラント工業株式会社
ワンフー事業部

犬・猫の生態
シリーズ③

ワンちゃん・ネコちゃんの生態から考える・・・

必要に応じて安全な“ダイエット”を

**ワンフーご愛用の方は充分ご存知かも知れませんが、
ワンちゃん・ネコちゃんの変わらぬ健康のため再認識して頂きたい「生態」をお伝えします。**

どんどん寒くなるこの季節
体温を保つためにカロリーが必要!!

ワンちゃんもネコちゃんも、気温が低下しても体温を保つため、体内脂肪を燃焼しエネルギーを多く作る必要があります。ですから、実は冬のほうが基礎代謝は高く、脂肪は燃焼されやすのです。「食欲の秋」というように食欲が増すのはそのためです。つまり、たくさん食べて体を肥やす「冬太り」は、寒い冬を迎える準備。動物の自然な生理現象です。

快適快適・・・と思ったらくるしい!!

とは言っても
気をつけなくてはいけません。

とはいえ、現代では室内で過ごすことの多いワンちゃん・ネコちゃん。暖房の中で過ごす時間が長ければ体が冷えることもなく、必要なエネルギー消費も少なくなります。また、冬場は寒さからどうしても運動不足になりがちで、消費されなければ体脂肪として蓄積されます。さらに本来は、「冬太り」も夏になれば「夏やせ」し、バランスよく保たれますが、冬と同じく夏も快適な環境で暮らしていると夏やせもしづらく、そのまま蓄えられて肥満になってしまいます。

寒いからって運動さぼらないでね!!

だから3つのポイントで
過剰な「冬太り」を防ぎましょう!!

①体重に合った適正な食事管理

室内で暮らしている健康なワンちゃん・ネコちゃんは、季節変化の影響も受けにくいものです。ですから、冬に食事内容や量を特別変える必要はありません。

②ゆっくり散歩に時間をかけて

健康なワンちゃん・ネコちゃんは冬でも毎日散歩をしましょう。特に、寒いからと極端に走り、短時間で済ませる散歩はおすすめしません。室内からの気温変化になどで体に負担がかかりすぎます。比較的日光が出ているあたたかい時間帯にゆっくり散歩しましょう。

③生活のリズムを変えずに

寒さに弱い犬種や、子犬・や高齢犬は食事や散歩にも気を配る必要がありますが、健康なワンちゃんのリズムは変えないようにしましょう。冬太りの主な原因は飼い主の気のゆるみや甘やかしが原因になります。季節を問わず愛犬を肥満にさせないことは、健康で元気に長生きするため大切なことです。

犬・猫の生態
シリーズ③

肥満でもお世話になります「療法食」ってなに!?

現在、ワンフーがご提供しているフードはすべて「総合栄養食」と呼ばれるものです。
これに対して、「療法食」とは以下のようなものです。

【療法食】りょうほうしょく

特定の病気などに栄養的に対処するために栄養バランスが考慮されているフード。専門的なアドバイスや指示にしたがって与えることを意図したペットフードのことです。多くの製品は総合栄養食と同等の栄養バランスを満たしていますが、病気を管理するための特殊な組成をもつフードで、獣医師の指示にしたがって与えるものです。

このことからわかるように、「療法食」はあくまで病気への対処のために食べるものです。健康なワンちゃん・ネコちゃんであれば肥満や病気にならないために、毎日適正な食事管理の元で「総合栄養食」を与えてあげましょう。

食事の種類	与える機会	注意点
総合栄養食	毎日の主食	
ジャーキーなど	おやつ・間食	1日に必要なエネルギーの20%以内が目安
栄養補助食	食欲不振時など特定のカロリー補給	
療法食	特定の病気などに栄養的に対処する際	獣医との相談で与える

医食同源
コラム

クチャとチャチャについて

── 愛猫家は自分の猫を語るとき、決まって自慢話になる。無意識にせよそれは決まっている ──

私には雌猫〝クチャ〟と雄猫〝チャチャ〟という家族がいた。クチャは小さい頃はオテンバで、よく隙をみては外出し、ある時などはどうやって上ったのか屋根の上から降りられず泣いていたり、ある時は外で影をひそめ隠れていて、見つかると反抗的な態度を見せたりした。また、私が中国に行き留守をし家内の母親に世話を頼んだ時。これよとばかりに外に遊びに出てしまい帰ってこないクチャを心配し、母親が神経衰弱でたおれかねない状況を作ったりもした。チャチャはクチャと正反対で、自分に正直で堂々とし、飾ることなく、なすがままの豪放快楽の体をしていた。

クチャは23歳で天寿を全うし、チャチャは6歳でこの世を去った。この寿命の違いはどこからくるものか?

2匹の食生活について語るなら、23歳まで生きたクチャはいたって小食で、少し痩せぎみで、体重はほとんど変わらず、少し食べては毛づくろいと、軽快に動き回るのが大好きだった。

一方、6歳で亡くなったチャチャは食べたいだけ食べる、食には貪欲な方だった。体重も増加、それを気にするでもなく、食後はゆっくりと休み、自由を謳歌し〝この生活に満足している、といった風で、悠々と物怖じしなかった。

ヒトでは遺伝子が肥満に関わっているらしいことが判明しつつある。両親とも太っている場合で80%、母親だけの場合で60%、父親だけの場合で40%という確率で子供が肥満になるという統計が出ている。

なんとも皮肉なものだ、ヒトも、犬も、猫たちも、長い歴史の中でやっと飢餓から解放されたと思ったら肥満との戦いが待っていた。文字通り〝太く短い人生か、細く長い人生か、究極の選択が犬や猫たちにも、また飼い主にも待っている。

日本動物ストレス学会会長
動物介在教育・療法学会名誉理事長
北里大学獣医学部教授
獣医学博士 樋口誠一